

マンソリー、 百花繚乱。

ロールス、ベントレー、アストン、フェラーリ……。
世のすべての最上のモデルをベースに、過激かつ洗練の
手を加えるスペシャルチューナー、マンソリーの最新作は、
ロールスのゴーストとマセのグラントウーリスモSだった。
その出来映えはメーカーチューンドさながらの完成度だ。

ゴースト&グランツを料理。
その勢いは留まる気配なし！

MANSORY

GRAN
TURISMO S

GHOST

TEL ● 古賀貴司 (Takashi Kaji) PHOTO ● Mansory

MANSORY GRAN TURISMO S

カーボンファイバーのエアロパーツは、マンソリーがもっとも得意とするところだ。グリルまわりまで覆いかぶさったカーボンパネルが、フロントマスクの大きなアクセントになっている。また、LEDを縦方向に配置し、グラントゥーリスも新しい表情をもたらしている。エクステリアに施されたワークス加工もセンスよくまとめられており、それはまるでグラントゥーリスGTのスペシャルモデルにも思える出来だ。



前例なきチャレンジの連続、まるで三味線とロックの融合だ。



エアダクトに連なるLEDライトが、新しい表情を与えている。カーボン製パーツをふんだんに盛り込み、リヤスポイラー、ディフューザーなども設置される。タイヤサイズはフロント235/30ZR20、リヤは305/28ZR21。



エクステリアと同様、車と乗客の間に全周に上質なレザーを配し、シートにはベンツレーンなどを採用した専用のスポーツシートが与えられている。



40年の向上が垣間見えている。エクステリアだけでなく、インテリアにも抜かりがない。アルミベダール、専用ステアリングホイール、そしてカーボンファイバーパネルが随所に施されている。マンソリーの耐久性の高いソフトレザーは定評があり、グラントゥーリスGTではベンツレーンが用いられていた。余談だが、本革シート作りの職人を多く抱えているから、マンソリーではオフィスチェアの販売も行っている。誰もやらなかったことに挑み、新しい需要を喚起したマンソリー。たとえるなら三味線とロックを融合させ、新たな音楽性を見出した吉田兄弟のような感じか？ 昨今の差別化は、伝統と革新の融合にありそうだ。



MANSORY GHOST

マンソリーが手掛けたロールス・ロイス・ゴースト。決して誇ってはいけないデザインをすることなく、まるで「真正」であるかのようなエレガンスを醸し出している。フロントバンパー中央部分にはLEDが新たに追加されており、夜間にはより一層威圧的なオーラを醸成することだろう。ノーマルではフロントグリルからフロントウィンドウまわりにかけてアルミを保護したデザインになっているが、マンソリーではあえてアルミ部分に塗装を施している。



【豪華】と【堅牢】という相反するコンセプトをバランスさせたいンテリア、ステアリングからエアバッグカバーに至るまでウッドとカーボンを基調としたモディファイを行った。

マンソリーはいまだドイツ・フューヒルゲビルゲとスイス・チューリッヒの2カ所に拠点を構えている。スイスに拠点があるのは、2007年11月にボルシェ・チューナーであるリンズピードのチューニング部門を買収し、開発施設や人材を引き継いでいるからだ。ドイツのブランドなのか、スイスのブランドなのか、たまに表記が分かれるのには、こんな理由があった。ちなみにリンズピードは現在も革新的なコンセプトカーを造り続けている。英国車好きを自他ともに認める、コウロシユ・マンソリーが設立したマンソリー。その名前が広く知れ渡ったのは、恐らくベントレー・コンチネンタルGTのチューニングを手掛けてからだだろう。それまでベントレーをチューニングするなんて、ほとんど前例がなかった。少し大げさに言えば、世界最高級ブランドであるベントレーをチューニングするなんて、恐れ多くて誰も考えもしなかったのだ。当時はそんなニーズもほとんどなかった。ところがコンチネンタルGTの登場は17パブル、新興国パブルなどと重なり、新たな顧客層の獲得に成功した。彼



らにはマンソリーのコンチネンタルGTチューニングが受け入れられ、新しい需要が生まれたというわけだ。そんなマンソリーが今年3月のジュネーブ・ショーで披露したのが、ロールス・ロイス・ゴーストだ。すでにファントムを手がけているマンソリーだけに、それほどまでの衝撃はない。マンソリーだから、とすんなり受け入れられるだけの認知は得たというわけだ。ファントムよりひと回り小さいとはいえ、22インチアルミホイールが流石となく取まるゴーストはやはり大きい。ジュネーブ・ショーではショッキングブルーに金メッキのカラーが目玉だったが、あれはあくまでもショーカー。フロント/ディフュー



ザー一体型リヤバンパー、サイドスカート、トランクスポイラーなどは意外と控えめ。「衝撃」と「楚々」という相反するイメージを上手くバランスさせているのは、マンソリーならではの技法と云える。6・62V12ツインターボエンジンは、ターボチャージャーを大型化し、ECUを書き換え、エキゾーストを変更。最大出力はノーマルの563馬力から720馬力までパワーアップされている。最大トルクも780Nmから860Nmと向上。0-100km/h加速は4.8秒から4.4秒へ短縮され、2・41近い車重を考えれば十分すぎる加速性能だ。最近、ヨーロッパでのモーターショーでは必ず新しいモデルを追加してきているマンソリー。来る10月のパリ・サロンでは、マセラティ・グラントゥーリスGTを登場させた。ベントレー、アストン、ロールス・ロイス、メルセデス、フェラーリ、ブガッティ、そしてリンズピードから引き継いだボルシェ・レンジロー